

令和7年度 第4回神戸市総合基本計画審議会 議事要旨

開催日時：2026年1月15日（火曜）15時～17時

開催場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

出席者：

氏名	所属および肩書
石川 路子	甲南大学 経済学部 教授
伊藤 絵実里	株式会社くさかんむり（元 神戸地域おこし隊）
稲垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
岩田 かなみ	株式会社W SoWelu コミュニティマネージャー
小野セレストア摩耶	同志社大学 社会学部 准教授
佳山 奈央	La vie est belle 株式会社 代表（サトプレイス PORTO を運営）
河南 忠和	神戸市会議員（自由民主党 幹事長）
客野 尚志	関西学院大学 総合政策学部 教授
小林 鮎美	連合神戸地域協議会
佐合 純	iC 株式会社 代表取締役
品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
高瀬 勝也	神戸市会議員（公明党）
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長
ながさわ 淳一	神戸市会議員（日本維新の会）
服部 孝司	公益財団法人神戸市民文化振興財団 理事長
飛田 敦子	認定NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長
平田 恭子	西日本旅客鉄道株式会社 理事（近畿統括本部・兵庫支社長）
村川 勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事
森本 真	神戸市会議員（日本共産党 団長）
よこはた 和幸	神戸市会議員（こうべ未来 団長）
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部 准教授

欠席者：

浦島 理恵	インスタグラマー
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員（コーポレートアフェアーズ 統括部長）
山下 裕子	全国まちなか広場研究会 ひと・ネットワーククリエイター／広場ニスト

（敬称略、五十音順）

1. 開会 司会 企画調整局 山本副局長

- ・資料説明、確認

2. 議事（1）パブリックコメント結果について

<事務局>

- ・資料2に基づき説明

<会長>

- ・パブリックコメントの結果と対応について、意見を求めたい。
- ・今回の計画は、基本構想・基本計画・実施計画の3層構造となっている。市民から多くの関心をいただいたが、具体的な実施計画に話が集中し、議論のレベルに差が生じた点は今後の課題である。また、「Well-being指標」の周知不足も否めないため、継続的な浸透が必要だ。
- ・市の説明と対応について合意。
- ・続いて、2番目の議題「都市像のタイトルについて」、事務局より説明をお願いしたい。

3. 議事（2）都市像のタイトルについて

<事務局>

- ・資料3に基づき説明

<会長>

- ・事務局の説明どおり、委員の知恵を絞った結果、最終的にはシンプルな案に落ち着いた。事前説明でもおおむね了解を得ているため、今回はこの内容で進めたい。他都市と比較しても良い案だと感じており、広く浸透することを期待する。
- ・以上で主要な議題は終了した。最後に、3番目の議題「答申（案）について」、事務局より説明をお願いしたい。

4. 議事（3）答申（案）について

<事務局>

- ・資料4に基づき説明

<会長>

- ・事務局より答申（案）の説明があった。最終段階のため、誤字脱字等の微細な修正があれば事務局へ報告いただきたい。
- ・本案を審議会の最終答申として合意。
- ・議事終了に際し、今回の基本計画の策定プロセスが、神戸新聞や時事通信等のメディアで「革新的」と高く評価されたことを紹介したい。ワークショップの運営を支えた事務局の尽力は大きく、全国的にも注目されている。事務局としてコメントがあればお願いしたい。

<事務局>

- ・当初は手探りだったワークショップも、委員の指導によって進め方を学び、また多くの方々の協力により合計 100 回以上開催することができた。特に A I の仕組みを活用した新たな取り組みも行い、その様子をメディアで紹介いただいたことに感謝している。今回の経験を今後に生かすとともに、庁内へも広く展開できるよう引き続き頑張っていきたい。

<会長>

- ・2年にわたる審議会での熱心な議論に感謝する。委員自らワークショップを組織・運営し、子どもたちを含む膨大な意見を計画に反映させたプロセスは、全国的にも稀で貴重な経験であったと感じている。
- ・今後は、策定プロセスで得られた成果をいかに市民と共有するかが重要な課題となる。本日がこのメンバーが揃う公式な場は最後となるため、これまでの感想や周知・浸透に向けた提言などを、時間の許す限り頂戴したい。

5. 各委員による審議会後の所感まとめ

<委員>

- ・この答申書が、多くの市民の意見と職員の皆様の尽力によって形になったことに、深く感謝している。ワークショップへの参加は私にとっても大きな学びであり、多様な意見に触れて思慮を深める貴重な機会となった。計画策定はスタートであり、今後はこの基本計画をいかに実行に移し、目標を超える形にしていけるかが重要である。

<委員>

- ・市民参加型のワークショップを通じて、10代から30代の若い世代の声を直接聞いたことが非常に貴重な体験だった。今後は計画を理念や掛け声で終わらせないフェーズに入る。予算編成や事業選択において、現在だけでなく10年後を見据えた行政運営を期待している。

<委員>

- ・印象に残った点は3点ある。1つ目は、アナログとデジタルのハイブリッドな手法で5万人規模の意見を集約したプロセスは、極めて現代的で、大きな学びであった。
- ・2つ目は、第一線で活躍する委員との議論を通じ、自身の活動を客観的に振り返る機会にもなった。
- ・3つ目は、今後は「誰が担うのか」という具体的な主体を明確にすることが、計画実現への近道になるという点だ。

<会長>

- ・すでに「2030 ビジョン」として、具体的な実行計画は動き始めている。ぜひそちらも参照していただきたい。

<委員>

- ・今回の取り組みにおいてA Iが有効に活用された点が非常に印象的であった。A Iがあったからこそ意見集約が可能になり、結果としてより多くの人と直接対話する機会が生まれた。新しい技術によって市民参加を促進できたプロセスは、今の時代に光を灯す素晴らしい試みであった。

<委員>

- ・この場に参加する中で、自身の力不足も感じつつ、多様な専門性を持つ委員との議論から多くの刺激を受けた。市民が神戸の未来を自分事として考えることが何より重要であり、その熱い思いを実行段階でどう活かすかが今後の課題である。自分にできることをやっていきたい。

<委員>

- ・2点述べたい。1つ目は、ワークショップの効果だ。市民の率直な意見が、対話の積み重ねの中で前向きな表現へと整理・深化していく過程が見られ、印象に残った。
- ・2つ目は、神戸に地縁のない30代の事業者たちと対話した経験から、外から来た人たちが「食」を通じて兵庫の魅力を感じ、神戸に移り住んでいることを知った。これは、子どもたちから出た「食」に関する意見と見事にリンクしている。世代や立場を超えて共通する実感が、10年後の計画に向けても反映されたことに感動している。

<委員>

- ・市民に近い立場として、若者の活動を通じて感じていることを発言してきた。
- ・ワークショップに参加した学生たちが、自発的に「2035年の神戸」をつくる活動を始めるなど、小さな輪が広がっていることを実感している。
- ・若者の定着には日常の営みが重要であり、身近な人の影響が大きいと実感している。自分自身が神戸で楽しそうに生きる姿を示すことが、結果として周囲に広がり、2035年のビジョン達成につながると考えている。

<委員>

- ・多くの市民の意見をA Iで集約し、将来像を作り上げた今回のプロセスは画期的であり、自身も多くの気づきを得た。
- ・10年後の神戸には、災害へのレジリエンスの強化が欠かせない。復元力を備えたまちづくりは、行政だけでなく市民全体の努力が必要であり、文化や芸術の振興も含めて、強靱な神戸を実現していきたい。

<委員>

- ・行政が一方向的に計画を作るのではなく、多くの市民に市政に参加してもらったことは、非常に価値ある取り組みだった。ワークショップを通じて、成果物以上に「このプロセスが面白い」という話をよくしていた。行政がこうしたマインドを持ち続けていること自体が面白い。この姿勢があれば、10年後の神戸もきっと面白いまちになると感じている。

<委員>

- ・とても勉強になり、良い機会を得ることができた。
- ・いくつかの自治体で総合計画の策定に携わったが、ここまで市民参加型で行うことはほとんどない。特に小・中学生の意見を丁寧に聞いたことは大きな意義があった。子どもの頃に神戸の将来を考えた経験が、10年後に大人として神戸で活動し始めるのが非常に楽しみであり、まちを良い方向に変えていくと期待している。今回のプロセスは極めて意味のある取り組みだった。

<委員>

- ・ワークショップを通じて神戸の魅力を改めて発見できる良い機会だった。10年後、20年後の神戸を担うのは今の子どもたちである。大人では気づけない柔軟な発想や意見を今後も積極的に取り入れていただきたい。

<委員>

- ・スマートシティとは技術主導ではなく、「誰にとって住みやすいか」という部分を追求する姿勢こそが本質だと考えている。その意味で、今回の取り組みは「スマート神戸」を象徴する素晴らしい事例で、他都市から注目してもらえる理由だと考えている。
- ・「2035年の神戸」というタイトルが付き、1つの作品が完成したような感動を覚えた。
- ・会長の、委員の意見に対するコメント力、包容力の高さが素晴らしく、印象的だった。

<委員>

- ・子どもたちにとって素晴らしい経験になったと思う。2035年には子どもたちが社会の中心世代となり、自分自身は第一線を退く年齢になる。その時までには、次の世代へしっかりとこの世の中を受け継げるよう、頑張らなければならないと決意を新たにしました。

<会長>

- ・これまでにいただいたアイデアやコメントの趣旨は、事務局に確実に伝わっている。今後は職員の皆さんがその精神を生かして運用にあたっていただけたらと思う。
- ・2年間にわたる熱心な議論とご協力に、心より感謝申し上げます。

6. 閉会

<西尾局長>

- ・長期間にわたり、会長、副会長、委員の皆様、熱心な議論をしていただいたことに心から感謝を申し上げます。
- ・今年度はワークショップやG I G A端末を活用した子どもの意見収集などに取り組み、5万人を超える市民の意見を集め、委員の協力により取りまとめることができた。委員自ら主体的にワークショップを企画・主催・実行したことは、これまでにない経験であり、強い感動を覚えた。このプロセスが市民参画の機運やシビックプライドの醸成につながると考え、今後も取り組みを進めることを決意している。

- ・ 今後は、計画を具体的に実行へ移すことが課題だと認識している。毎年の予算審議を通じ、10年後の神戸市のありたい姿を実現するため努力していく所存である。